

# 「地域（住民）の生活課題に向 き合う多様な主体による協働」

岩手県立大学 社会福祉学部  
佐藤 哲郎

# 1. 地域福祉が求められる背景

- (1) 複雑化・多様化する生活問題
- (2) 地域包括ケア関連
- (3) 包括的支援体制

## (1) 複雑化・多様化する生活問題①

- その時々<sup>3</sup>の地域的・社会的背景によって影響を受ける
  - 当該地域固有の課題
  - 地理的、人的、関係的な要件によって発生する
  - 時代によって課題が変化する

## (1) 複雑化・多様化する生活問題②

- その人が抱えている固有な課題
  - 【個別性】
- 地域に共通した課題
  - 【共通性】
- ただし・・・

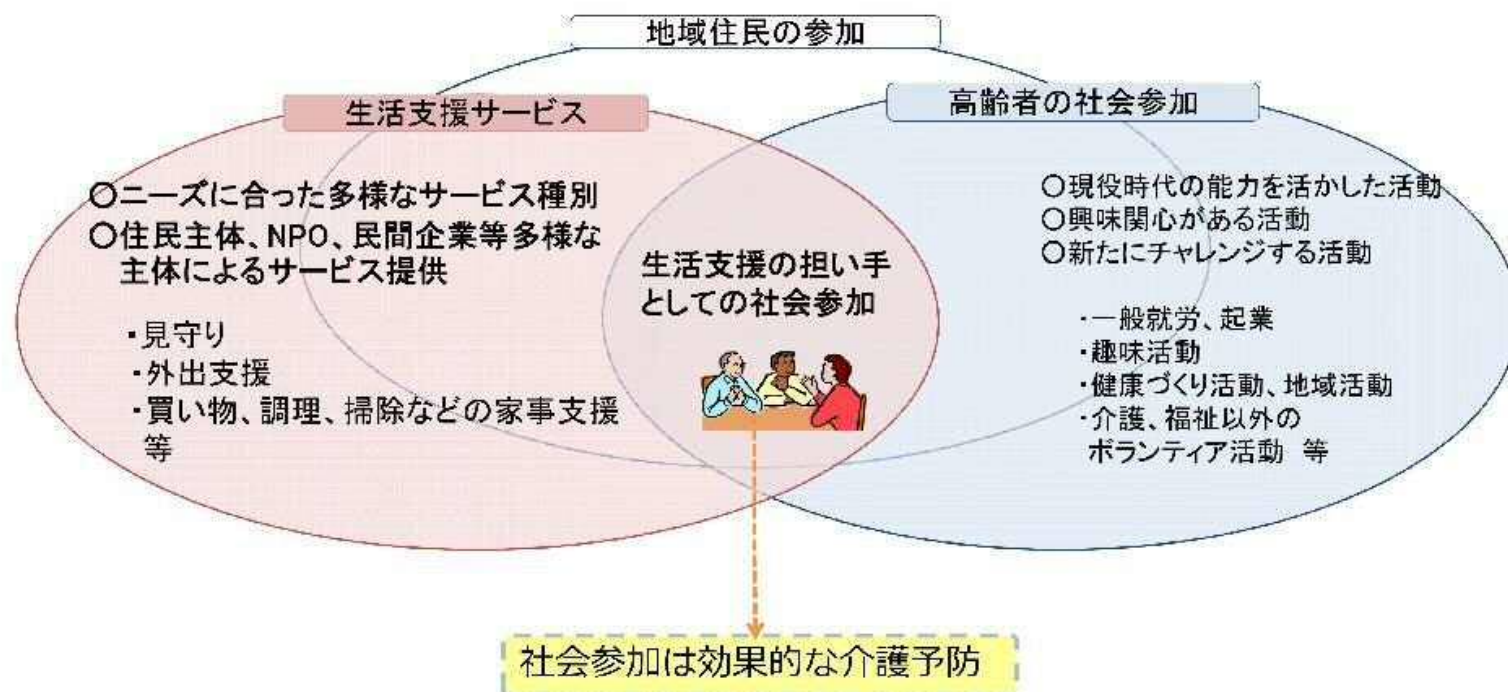
## (1) 複雑化・多様化する生活問題③

- 地域で共有化されやすい課題／されにくい課題
  - 認知症
  - 障がい
  - 児童（子育て）
  - 外国人
  - 困窮世帯
  - LGBTQ ほか

## (2) 地域包括ケア関連

### 生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

- 高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、生活支援サービスと高齢者自身の社会参加が必要。
- 多様な主体による生活支援サービスの提供に高齢者の社会参加を一層進めることを通じて、**元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することも期待**される。このように、高齢者が社会的役割をもつことにより、生きがいや介護予防にもつながる。



出典：厚生労働省「多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供」

## 多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人等の多様な事業主体による重層的な生活支援サービスの提供体制の構築を支援

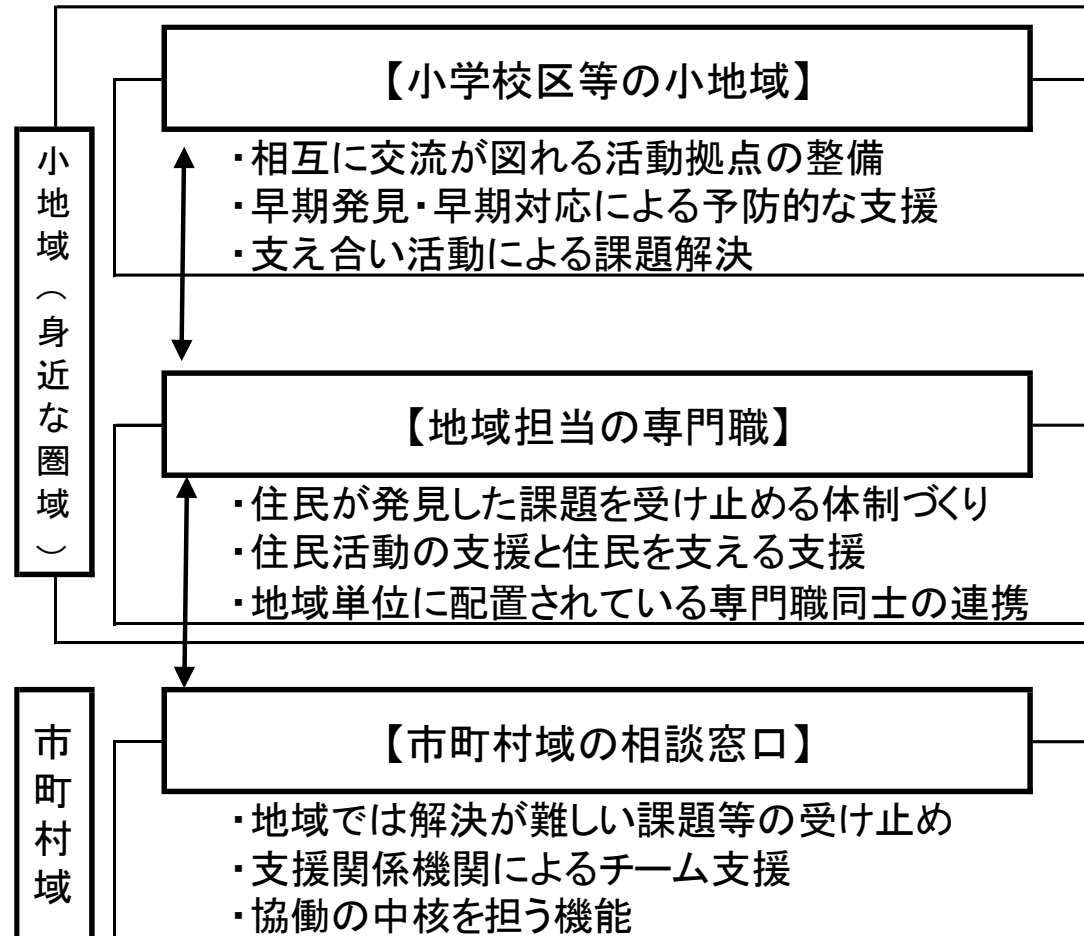


- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- ・「生涯現役コーディネーター（仮称）」の配置や協議体の設置などに対する支援



出典：厚生労働省「多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供」

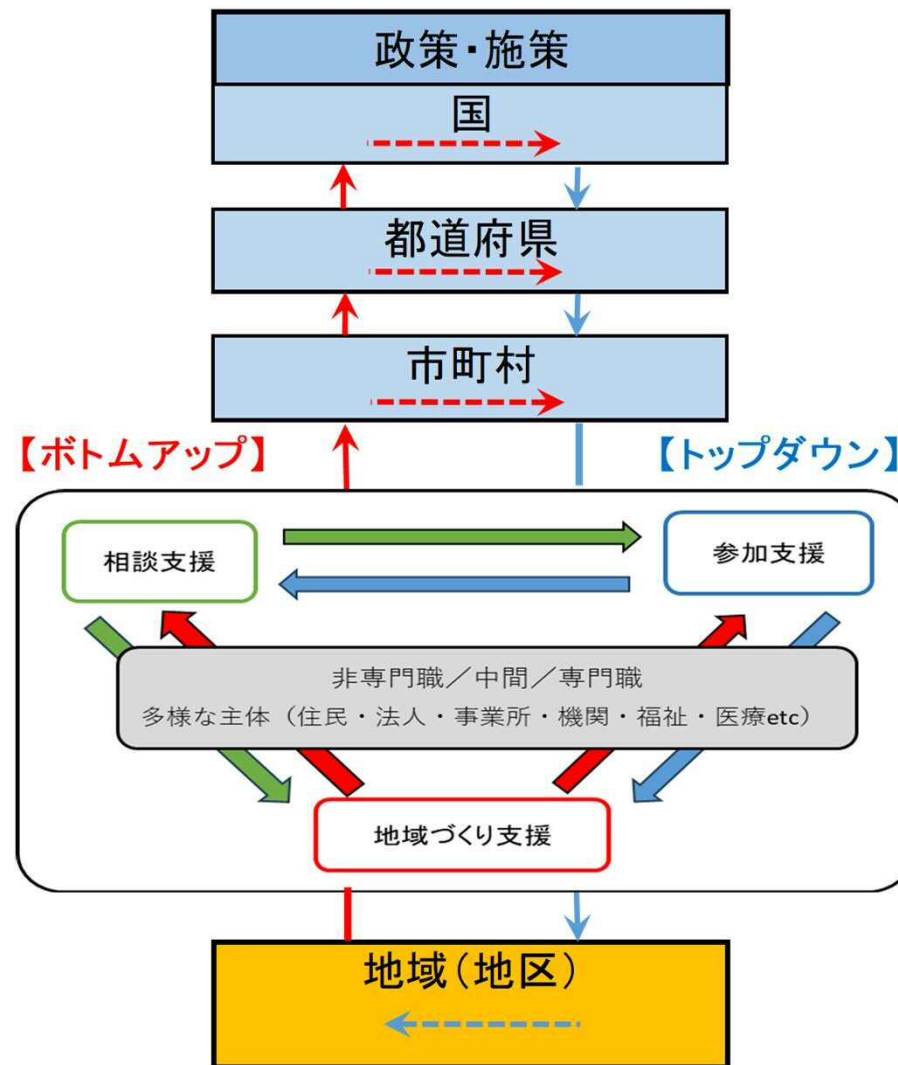
### (3) 包括的支援体制のイメージ



永田(2019)を基に一部改変



### (3) 包括的支援体制の政策展開



### (3) 包括的支援体制具現化への課題

- カタチとしての相談支援・参加支援は可能
  - 相談支援・・・専門職がこれまで担っている
  - 参加支援・・・何かしらの活動に参加プログラムは企画できる

しかし・・・

- 地域づくりに向けた支援
  - そこで暮らしている住民の意識・行動変容に至る支援が  
できているのか？
  - カタチとして見えにくい
  - 時間（年数）がかかる

## 2. 地域福祉と主体性およびその支援

- (1) 問題意識
- (2) 地域包括ケア関連
- (3) 包括的支援体制

## 問題意識① 「地域の福祉」と「地域福祉」

- 「地域を外から操作対象化し、施策化しているかぎりにおいては『地域の福祉』であり、『地域福祉』とは区別して考えるべきであろう。  
『地域福祉』は、あらたな質の地域社会を形成していく内発性（内発的な力（マハト）の意味であり、地域社会形成力、主体力、さらに、共同性、連帯性、自治性を含む）を基本要件とするところに『地域の福祉』との差がある。」
  - ・ 右田紀久恵（1993）『自治型地域福祉の展開』法律文化社、14ページ。

# 「地域の福祉」のイメージ

【外側】  
行政  
福祉法人

操作対象化

- ・ 地域共生社会って、国も言っているから支え合いましょう！
- ・ 地域の福祉力を高めましょう！
- ・ 支えあう地域づくりが大切！
- ・ 地域のことは地域のみなさんで進めてください。

地 域  
地域住民

## 問題意識② 制度に当てこめない住民活動

「地域住民は、専門職と異なり、指示や命令、  
介護報酬では動かない(動かせない)ため、  
システム化にはなじまない」

永田祐(2013)『住民と創る地域包括ケアシステム』ミネルヴァ書房、18ページ。

以上のことから・・・

地域福祉領域においては

- ①地域を外から操作対象化し、施策化されている（されやすい）という現実
  - ただし、地域へ働きかける出発点【初期介入時】としての外からの介入はありうる
- ②地域住民は制度・政策におけるシステム化になじまない（なじみにくい？）
- 地域・住民の主体性が重要

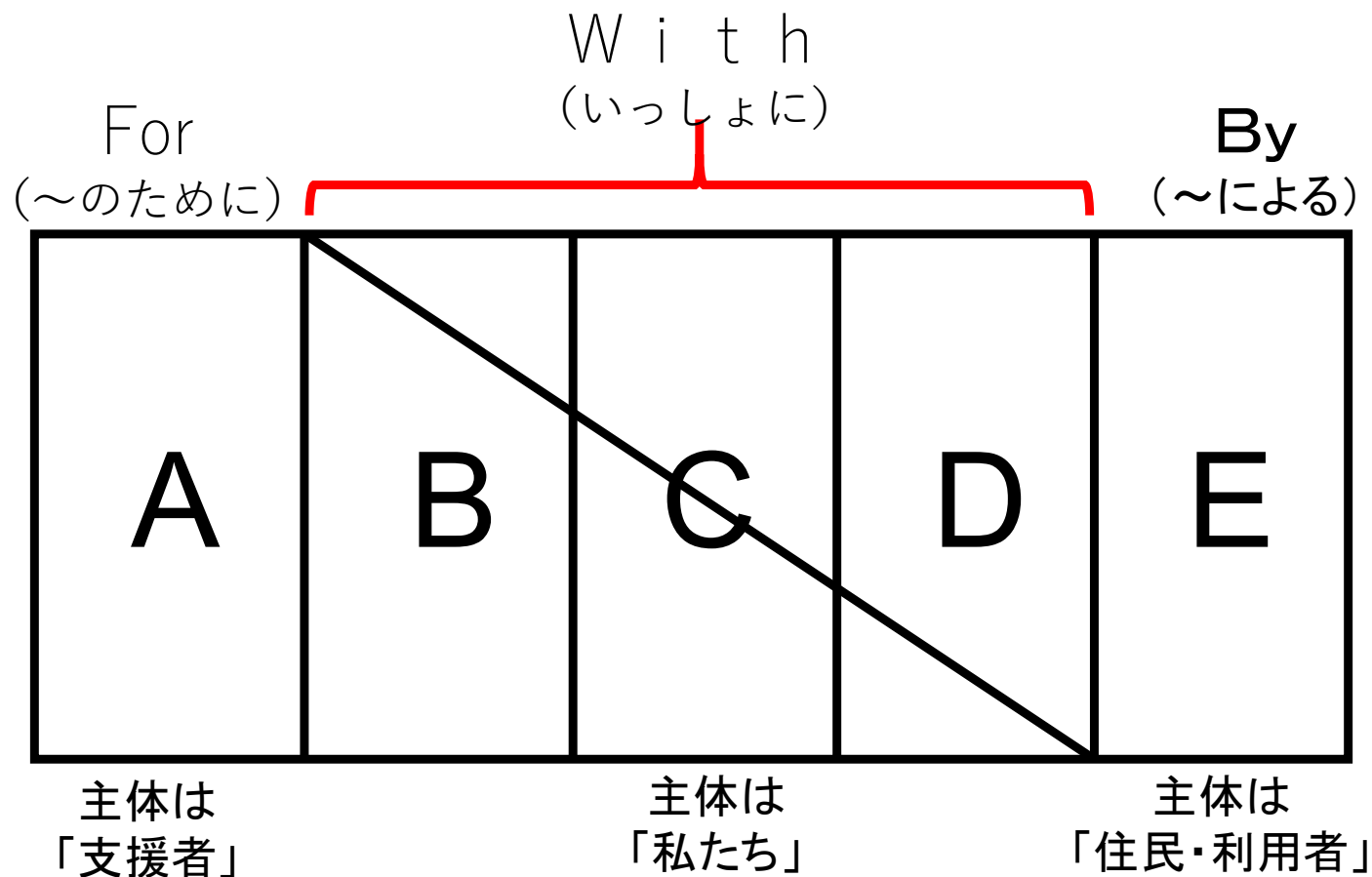
## 自主性と主体性の違い

主体性	<p>何をやるかは決まっていない状況でも自分で考えて、判断し行動すること</p> <p>例) 支え合いをなぜ行うことが必要なのかを考え、場合によっては新たな活動を加えながら支え合い活動を行う</p>
自主性	<p>単純に「やるべきこと」は明確になっていて、その行動を人に言われる前に率先して自らやること</p> <p>例) 支え合いをすることが目的化する</p>

- 主体性を形成するための支援が専門職には求められます。



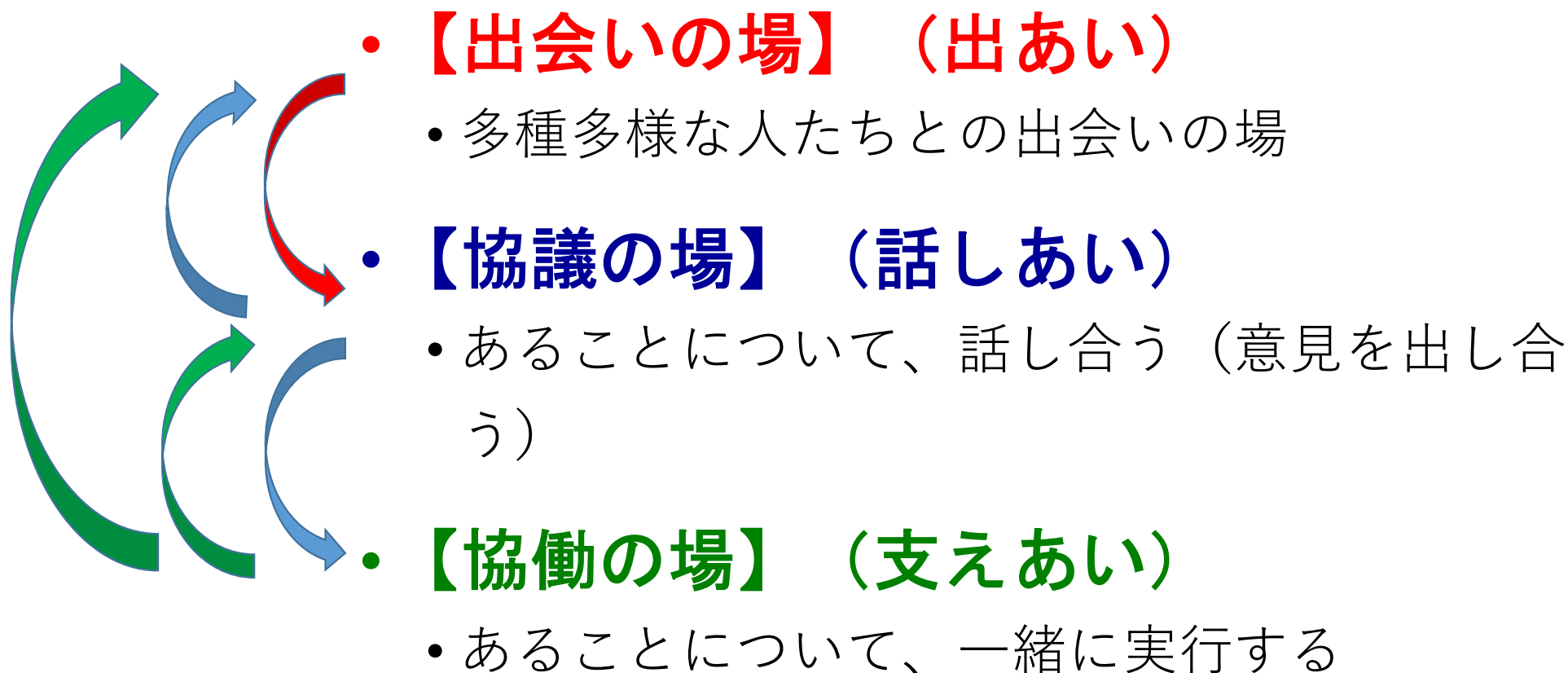
# 実践をマネジメントする視点



菅野道生(2022)『令和4年度主任介護支援専門員研修資料』

## 【初級編】

地域福祉推進のために必要な3つの「場」



## 3. 取り組み事例

## 山形市3町内会への働きかけ(ケアセンター)

- あかねヶ丘ケアセンターは医療法人社団が運営している事業所であり、山形市南西部に位置する地区に所在している。ケアセンターでは、介護保険事業である通所介護、認知症対応型通所介護、居宅介護支援を行っている。
- 医療法人社団が運営している認知症対応型共同生活介護(以下、「グループホーム」)の場所を移転する際、**地域貢献の一つとしてグループホームに併設する住民との交流を目的とした施設も併せて建設することになった。**

## (1) 初期介入期(2015～2017年度)

- ケアセンターによる南沼原地区内3町内会への第1回説明会(2017)
  - 担当者の思いを熱量込めて説明
  - **大失敗に終わる**＋住民側(何か裏があるんじゃないか)
- 3町内会住民との話し合い(第2回説明会)(2017)
  - 佐藤が実演する
  - 参加者(町内会長・民生委員ほか)の声を聴くことに徹する
    - 様々なアイデアが住民から出される
  - **出された声をホワイトボードに書き込み整理**
    - **グループ化・関係性を線等で示す→住民に確認**
- 3町内会住民との話し合い(第3回説明会以降)(2017)
  - 3社会福祉士(ケアセンター、地域包括、市社協生活支援Co)で協力進行

## (2) 住民の主体形成促進期(2018～2019年度)

- 「協議会」の組織化(2018)
- 「らくせいホール協議会」と名称変更(2018)
  - 協議会メンバー(住民有志)で決定
  - 運営も協議会で行う
    - 書類、規約、予約等管理もすべて協議会が主体
- 「通所型サービスB」申請および実施(2018)
  - ホールへの移送サービスも実施
- 「らくせいホール」開所式・オープニングイベントの企画・実施(2018)
  - 市内大学生も参画しワークショップ手法を用いてイベント企画
- らくせいホール利用および活動の実施, 定例会開催(2019)
  - ホワイトボードを活用した内容の可視化＋委員スマホで撮影
  - ホールの壁をホワイトボードに

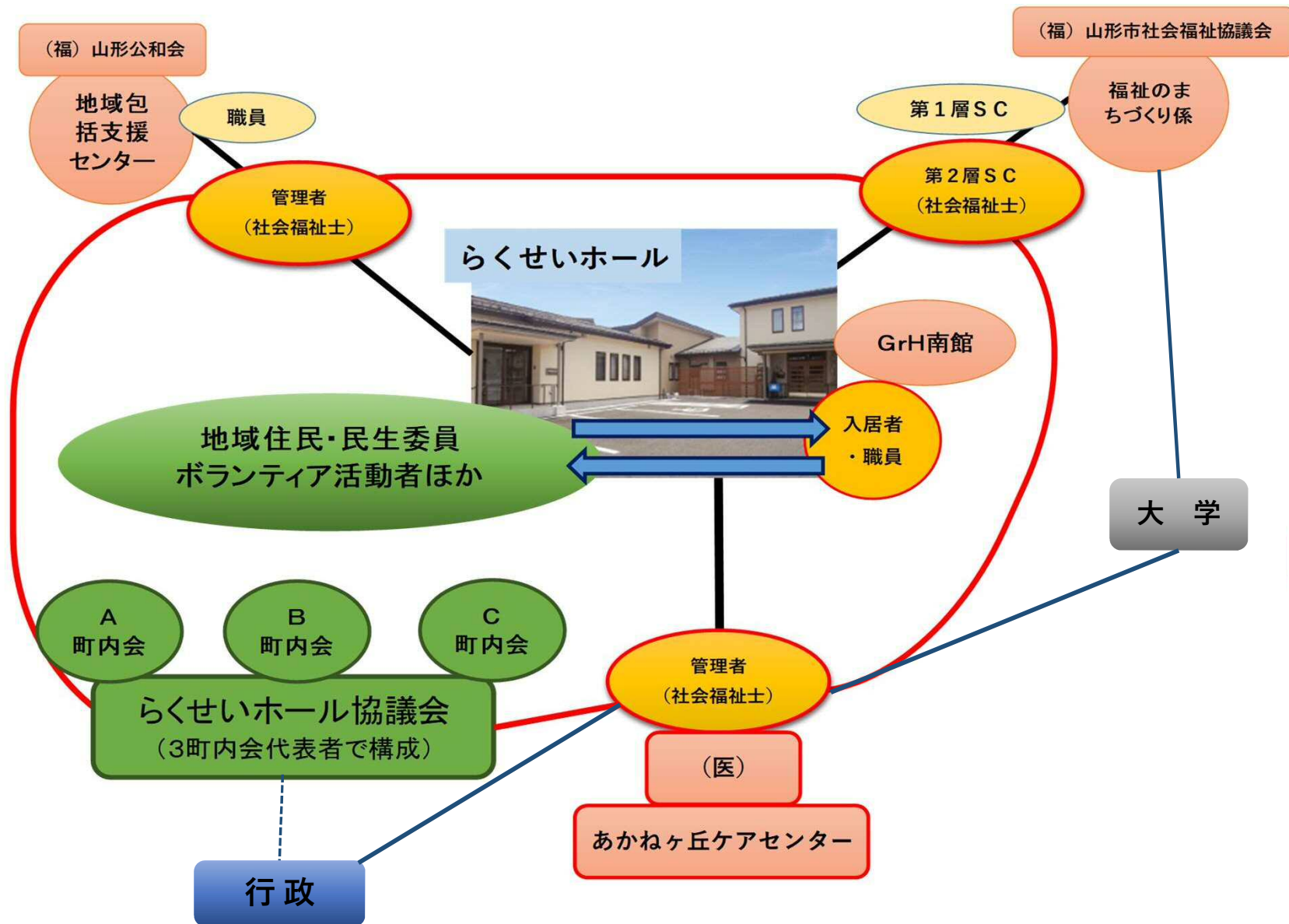
## B-(3) その後の展開期(2020年度～)

- グループホーム入居者との交流促進(2020)
  - 住民(ホール)⇔入居者(グループホーム)の行き来
- コロナ禍での活動方法の変更(2020～)
  - 少人数でのホール利用
  - DVDを活用した講座の企画・実施
  - ICT活用(オンライン会議や企画、LINEの活用)
- 住民では解決できない問題や課題の発生, 住民間の軋轢への対応(2020～)
  - 3社会福祉士で協力・分担
  - 協議会での話し合いの経緯の説明
  - 住民同士で何かしらの判断に必要な情報の提供

時期区分	年度	3つの場 相互作用	活動を実施する際の 主体* <sup>2</sup>	主体形成プロセスでの取り組みおよび5要素の相互作用（年度）
初期介入期	2017	出会い 出会い・協議 出会い・協議	社福士 住民＝研究者（社福士） 社福士3名＞住民	GケアセンターによるH地区内3町内会への第1回説明会（2017） 3町内会住民との話し合い（第2回説明会）（2017） 3町内会住民との話し合い（第3回説明会以降）（2017）
住民の主体形成促進期	2018～ 2019	出会い・協議 出会い・協議 協議・協働 出会い・協議・協働 協議・協働	住民＞社福士3名 住民（社福士3名） 住民＞社福士3名 住民＝大学生（社福士3名） 住民（社福士3名）	「協議会」の組織化（2018） 「らくせいホール協議会」と名称変更（2018） 「通所型サービスB」申請および実施（2018） 「らくせいホール」開所式・オープニングイベントの企画・実施（2018） ホール利用および活動の実施，定例会開催（2019）
その後の展開期	2020以降	出会い・協働 協議・協働 協議	住民（社福士3名） 住民（社福士3名） 住民＞社福士3名	グループホーム入居者との交流促進（2020） コロナ禍での活動方法の変更（2020～） 住民では解決できない問題や課題の発生，住民間の軋轢への対応（2020～）

「ア：出会いの場」 「イ：協議の場」 「ウ：協働の場」





あなたの所属する法人において、どのような取り組みを、  
どのような主体と協働しながら（戦略的に）行えますか？

# 【参考】 目的と手段

- 手段・・・働きかけ
- 目的・・・その人の生活の自己実現  
暮らしやすい地域社会

## 【戦略性】

- どのような【手段】を用いて、  
どう【目的】を達成するのか

## 【参考】ポイント①

### 【know-how と know-who】

#### **know-how**

- 手法を知っている（技術）

#### **know-who**

- ～について知っている人を、私は  
（○○さんは）知っている（人脈）

## 【参考】ポイント② 協働

- 福祉専門職は協働が実は苦手 . . .
- 細かく内容を計画（企画）すればするほど協働はしづらい
  - →異なるパラダイム
- ミッションを決める
  - 各々が担えるモノ・コトを共有
  - 全体をまとめる役割をどこが担うのか

## 【参考】ポイント③ 合意形成

- 1回の会議（話し合い）だけですべてが決まることはない（思惑通りにすすまない）。
- 必要ならば何度も協議し、場合によっては数年かかる場合も。